

新年度が始まりひと月が経ちました。

校長 市川 裕二

令和3年度が始まり、ひと月が経ちました。新型コロナウイルス感染防止を図りながらの入学式の実施となってしまいましたが、保護者の皆様の御理解と御支援を賜り、無事実施することができました。在校生も、新しい学年や学級、担任で、新しい年度を始めることができました。各学部では、新型コロナウイルス感染防止を図り、距離を取りながらも、新入生歓迎会の実施を行いました。

学校は、徐々に、新年度の学習を進めています。先日、校内を回っているとき、新学年に進学した児童生徒と少し話をしました。「新しい学年になってどう？」と聞いたところ「勉強は少し難しくなったけど、頑張っついでいく」と頼もしい答えが返ってきました。新しい学部・学年に進むと言うことは、新たな課題へのチャレンジが始まることであり、新たな経験を積み上げることになります。一人一人の児童生徒の目標に向け、頑張っついでほしいと思いました。我々も、児童生徒の頑張りを精一杯支えていかないとならないと改めて思いました。

さて、残念ながら、4月の末から、緊急事態宣言が発令されました。現在のところ、5月11日までの発令を聞いていますが、延びるかもしれません。延びたとしても、緊急事態宣言が解除されれば、5月22日(土)は、B部門高等部の体育祭、5月29日(土)は、A部門のスポーツ祭、B部門小中学部の運動会を感染防止の徹底を図りながら、予定通りの実施予定です。保護者の方の参観等例年とは一部違う開催となりますが、御理解と御協力をお願いいたします。

挨拶で始まる1日

副校長 清水 明美

皆さんこんにちは。4月より、西村副校長の後任としてあきる野学園に着任いたしました清水明美(しみずあけみ)と申します。今年度、肢体不自由教育部門(A部門)を担当いたします。

新年度が始まり、1ヶ月が過ぎました。毎朝、「おはようございます。」と玄関前で登校する児童・生徒を出迎えると、三者三様の挨拶が返ってきます。「おはようございます！」とマスク越しにもはっきりと聞こえる挨拶、玄関に近付くと少し緊張して準備をしながらの挨拶、教員と一緒にする挨拶、声・視線・口元や手の動きなど自分のできる方法でする挨拶、それぞれしっかりと伝わってきて気持ちの良い1日のスタートになります。

「挨拶」は、社会に出てからもとても大切なことです。「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」など、これからも相手に伝わるように取組んでいきましょう。

前任校は、小金井市にある小金井特別支援学校です。それ以前には、小平特別支援学校に勤務していました。2年振りに肢体不自由教育に携わることができ、とても楽しみにしています。新型コロナウイルス感染症防止に配慮をしながらの学習活動が続きますが、市川校長の学校経営計画の下、児童生徒一人一人が、自分の目標に向けて大きく成長できるよう支援してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

